

部門紹介

リハビリテーション科  
作業療法室

作業療法室では、四名の作業療法士が利用者様の豊かな生活のために、日々、取り組んでいます。作業療法は、とても幅広い方法でアプローチします。だから、作業療法の部屋は色々な物でいっぱい！今回は、**三つの作業療法室**の「あれやこれや」を紹介しましょう。

一つ目は、「**集団指導室**」。集団で使える位の広い部屋で、たくさんのおもちゃ・楽器・パズルや文房具、そして特徴的なのは、パソコンとたくさんのおもちゃ類がある事です。ちょっとした身体を動かせれば、スイッチを通していろんな機器（家電・パソコン・玩具など）を動かす事ができます。

二つ目は、「**作業療法室1**」の部屋。ここは扉を開けるとちよっとびっくりに！大きなブランコやホールプール、トランポリンやスロープ、小さい

けれどボルダリングボードや空中はしご・・・身体を動かしながら運動や感覚刺激の体験ができます。

三つ目は、「**作業療法室2**」の部屋。ここは、部屋の奥に秘密が！・・・陶芸と七宝の電気釜があるのです。その他、棚の中には、革細工・フェルト細工・小さな織り器・紙すきの作業道具等、様々な手工芸や作業を利用した活動ができるのです。

一度、見学に来てくださいなね。（作業療法室）

ボランティア紹介  
ニュー・アンサンブル・アコルデ

十一月二十八日アトラクシオンボランティアとして活動してください。ニュー・アンサンブル・アコルデによるアコルディアオン演奏がありました。

アコルディアオンの音色にぴったりなタンゴの曲から、季節の曲、皆が聴き馴染みのある曲まで、利用者の職員も楽しめる選曲で、通所や病棟に素敵な演奏・音楽を届けて

くださいました。アコルデの皆様は二〇〇九年より、年一回、毎年かかさず演奏にいらしてください。今年で九年が経ちます。今回残念ながら今年で活動終了となり、最後は名残惜しくも、これまでの感謝の気持ちを込めて、利用者の方から感謝状と花束を贈呈させていただきました。

アコルデの皆さん  
（右から足立さん、斉藤さん、園山さん、稲葉さん）



# わか草



第49回 平成31年1月1日  
発行 東京都立東部療育センター  
広報委員会  
東京都江東区新砂3-3-25

## 新年のご挨拶

東京都立東部療育センター  
院長 加我 牧子



新年の挨拶にて  
(加我院長)

明けましておめでとうございます。

二〇一九年、平成三十一年、亥年が幕を開けました。今年も改元の年になり、様々な意味でまた新しい時代が始まることになるでしょう。

昨年、当東京都立東部療育センターは岩崎裕治副院長を会長として第四十四回日本重症心身障害学会学術集会を

開催しました。この学会は重症心身障害児・者に関わるさまざまな職種の専門家が集い、学び合う学会であり、小林堤樹先生、大谷藤郎先生に続き有馬正高名誉院長が第三代理事長として三十年近く重症心身障害医学・医療を牽引する役割を果たしてこられました。第四十四回学術集会を岩崎先生に託され安堵されたご様子で学術理事長を退任されました。

本学術集会には一三〇〇名を超える参加者があり、盛大で意義深い大会になりました。市民公開セミナーでは「アドバンスケアプランニングを考える」シンポジウムのほか、入所、通所の利用者の方々のご協力を得てファッションショーを開催し、ご参加の皆様方から盛大な拍手を頂きました。

新理事長にはみちのく療育園の伊東宗行先生が選出され、重症心身障害学会も新しい時代を刻み始めました。

◇ 重症心身障害児・者のために

昨年一月には重症心身障害児（者）を守る親の会北浦雅子会長のご次男、七十二歳の北浦尚さんが在園中のむらさき愛育園からやすらかに旅立たれました。

尚さんが種痘後脳炎から重症心身障害児・者にならなければ、北浦会長は上品で素敵な九州大学教授の奥様としておだやかな人生をすごし、九十五歳のいまを優雅にゆったりとすごしていられたいとは思っていませんが、北浦会長は尚さんと全国

## 東部あれこれ

十月から十二月の話題です。

### 【十月】

大型の台風二十四号は沖縄、九州南部、紀伊半島から日本列島を縦断して北海道に抜け各地に被害をもたらしました。センターでも一日未明の暴風雨で、外壁の一部が剥がれ落ちるなど少し被害が出ました。その後暫くは雨模様の日も有りましたが、オータムフェスティバルや外出行事など元気に楽しむことができました。

### 【十一月】

十一月に入り比較的天候も落ち着いてきて、病棟の外出活動や通所の秋の遠足など、気持ちよく楽しむことができました。又、かもめ分教室学習発表会では、素晴らしいダ

ンスや劇を披露しました。秋は実習生の受入れが多い時期で、今年も看護師等の養成学校からの実習や中学生の体験実習、そして他施設からの研修生の受入れも始まっています。



### 【十二月】

一日はセンターの開設記念日。毎年恒例の栄養科による特別メニュー「鮭いくら丼」「おしるこ風デザート」などを頂いて皆で祝いました。クリスマス会は各病棟、通所それぞれに趣向を凝らし、ご家族やボランティアの皆様、かもめ分教室



特別メニュー  
(センター開設記念)

## 新人紹介

平成三十年十一月  
介護福祉士 木原晋さん  
平成三十一年一月  
看護師 山下真紀子さん

## 【編集後記】

明けまして、おめでとうございます。新春を新たな気持ちで迎えられた事とお喜び申し上げます。昨年は台風、地震、猛暑などによる災害がこれまでに多く多かったです。今年一年の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

センターのホームページが新しくなりました。



←これまでのわか草  
をご覧になりたい方は  
こちらからどうぞ

## ◇ 蛭子

の数多くの「尚さんたち」を守るため、小林堤樹先生の激励を受け、保護者、特にお母様方とともに団結して、静かに、強く、必死に戦わざるを得なかったわけで、その姿がここある政治家や行政の力をも動かした歴史は長く語り継がれるべきことと思います。

しかも弱いものを守るためにはお互いの主義主張によらず、親とおしが相争うことのないようにと自らを戒めたうえで、もっとも弱いものを一人ももれなく守るといふ親の憲章としてかかげた志の潔さが多くの人の心の琴線に触れ、重症心身障害児・者のためにさまざまな制度や権利を勝ち取ってこられた現状があります。

日本の障害児の最古の記載は「蛭（水）子（ひるこ）」であることは、当センターに来て初めて教えて頂きました。古事記によれば蛭子は、天の浮橋に立ち沼矛（ぬぼこ）で混沌をかき混ぜ、鹽（しお）が重なり積もってできた「おのころ島」から日本を作ったという伝説の神様、伊邪那岐命（いざなぎのみこと）と伊邪那美命（いざなみのみこと）の第一子であり、体が柔らかなく、日本書紀によれば三歳になっても足がたたない子供であったとされています。蛭子は葦船に乗せて流され、流された先で大切に祭られたといわれます。戎（えびす）神社という名も使われています。福男を



蛭子宮の名前を示す石標  
(西宮神社境内にて)

太古の時代にも重症心身障害児はいました。歴史的には長生きなど期待できない時代が長く続いていたわけで、医学医療看護介護の力を総結集することで尚さんも人生を楽しんで頂けた時代になったことをこれまで以上に大切に考えていきたいものだと思います。

法律から重症心身障害児という言葉が消えたことはいささか心配な点もありますが、当センターは重症心身障害児・者のための施設として多くの方々の願いと力を頂いて設立され、二〇〇五年の開設式では、当時の石原都知事が「こういう施設を皆さんのご協力で誕生させたということは、やはり人類の将来にとつての誇るべきモノユメントになりうると思います。」とご挨拶されたこと、特に手厚い医療・介護を必要とする方々も「専門的な医療の下で暮らしていただき、生きていてよかったですとおもっていただけるように」という当センター有馬正高名誉院長の志を忘れずに、スタッフ一同、力を尽くして行きたいと思っております。

亥年の今年が皆様にとって実りある一年になりますように。

# クリスマス会



センターで行われたクリスマス会です。



三階西病棟



三階南病棟



二階南病棟



二階西病棟



乳幼児通所



当日、振る舞われたクリスマスケーキ

十二月六日(木)に二階南・三階南病棟が、七日(金)に二階西・三階西病棟でクリスマス会がありました。新人職員の歌劇、利用者の皆様が活躍しているビデオ放映などがあり、応援の手拍子などが鳴り響いていました。三階南病棟では「平成三十年のできごと」のビデオもありました。「おさかな天国」や「だんご三兄弟」の歌が流れると、口々に「そんな年もあったよね」と懐かしがっていました。東日本大震災に触れては「あゝ」と感嘆の声が漏れるなど、悲喜こもごもの企画もありました。

(療育部)

## 幼児秋遠足



車の運転ゲームを体感

平成三十年十一月二日(金)、六日(火)の二日間に分かれて、乳幼児通所の秋遠足で「科学技術館」に行きました。一番のメインは、大きなシャボン玉に入ることで！保護者には、大きなシャボン玉を抱っこしてもらい、シャボン玉に入って写真を撮るパチリ。割れそうで割れないシャボン玉にみんなびっくりしていました。大きな鏡の所では、鏡と鏡に挟まれて、

自分がいっぱい増えたり、空気砲を友だちと打ち合ったり、モーターゾーンでは、車の運転ゲームを体験して楽しみました。科学と聞いて難しそう...と感じる保護者もいましたが、実際に行ってみると、こどもたちが楽しめる刺激が多く、様々な体験ができました。

(乳幼児通所 大島)

## 職場体験

十一月六日(火)と八日(木)の二日間、都立両国高校附属中学校生二名の職場体験がありました。当センターは重症心身障害児者の生活支援に関して様々な職種の職員が関わっています。そこでなるべく多くの職員からレクチャーを受け、それぞれの職員が職種を通じた働きかけを理解してもらえようという職場体験内容としました。



職場体験中のようす

院長、事務長、看護師、支援科、リハビリ科職員、かもめ分教室教員からの話に目を輝かせながら大きくうなずいていました。すごい勢いで吸収していたように思えました。

一人は医療系に、一人は心理学系に進みたいとの事でした。わずか二日間の職場体験でしたが「とても貴重で感動しました」との感想が寄せられました。

(療育部 鶴田)

平成三十年度 全国重症心身障害児（者）を守る会  
 関東甲信越ブロック大会（神奈川県・横浜市）

十月六日、七日に神奈川県民ホールにて開催されました。関東・甲信越地区から保護者の方、専門の先生方、施設職員等四百名が参加しました。神奈川県主催とのこともあり、津久井やまゆり園の再建に向けて、熱いメッセージが感じられる大会で

した。誰もが、お互いを尊重し、理解し支え合う社会の実現に向けて、また重症心身障害児（者）がより充実した暮らしが出来るようにするにはどうすれば良いか等、和やかな雰囲気の中で話し合われました。

（療育部 藤野）

全国重症心身障害日中活動支援協議会に参加して

（滋賀県・近江八幡市）



会場のようす  
 （滋賀県・近江八幡市）

シンポジウムでは「滋賀の地域包括支援」についての話でした。滋賀の場合は県全体を七圏域に分けており、施設のない地域も他の市や町がフォローできるようなシステムになっておりひとりももれなく支援を受けられるようになっていました。

また、分科会では「日中活動」に参加し、なかでも音楽療法は多くの施設が取り組んでおり参考になりました。

会では重症児者を支援している事業所との情報交換や連携、研修などを進めていき、各種問題にも取り組み、行政にも引き続き働きかけたいことが報告されました。

（通所 谷家）

十月十一日、十二日近江八幡市で行われました。協議会の内容は行政説明から始まり、講演会では国立成育医療センター「もみじの家」のハウスマネージャーの話でした。近年話題になっている「医療的ケア児」については家族と共に地域で安心して暮らせるような支援がなされています。

第四十五回 東日本施設協議会に参加して（静岡県・浜松市）



会場のようす  
 （静岡県・浜松市）

十一月八日、九日浜松市で開催されました。一日目の特別講演として聖隷三方病院森田副院長より緩和ケアの歴史的経緯と国内外の取組み状況について講演がありました。また、大倉山学院出店院長より「高齢者の重症心身障害の問題」と

して講演が行われ、認知症やがんなど様々な症状について講演がありました。二日目は、聖隷おおぞら療育センター横地顧問より「おおぞら療育センターから見た重症心身障害福祉ニース」と題して、おおぞら療育センター周辺の重症心身福祉ニースの状況について講演がありました。最後に長岡療育園小西園長より「長岡療育園における在宅重症児者支援」と題して、地域における長岡療育園の役割や現状について講演がありました。今回の施設協議会に参加させていただき、施設運営に関する取組み状況をお聞きすることができ、とても参考になりました。（事務室 大野）

平成三十年度 重症心身障害児者施設職員研修会

看護管理研究会コースに参加して（茨城県・水戸市）



会場のようす  
 （茨城県・水戸市）

十一月三十日から十二月二日の三日間、看護管理研究会コースが水戸市で開催されました。全国百十四施設から百三十五名の看護管理者が参加しました。

テーマは「重症心身障害児者施設におけるこれからの時代の看護」様々なニーズに応える看護を考える」で、ライフステージに沿った支援、コミュニケーションを重視した支援、重症児の地域生活を支えるデイサービスの紹介、看護管理者としての対話の大切さなど、豊富な話題で貴重な講演がありました。最終日は「看護管理者の課題とその取り組みについて」のグループ討議を行い、活発な意見交換が行われました。三日間を通して本当に充実した学びの多い研究会でした。

（療育部 清水）

# オータムフェスティバル



各病棟ごとにテーマを決めて作成した作品

作品展示のようす  
(二階食堂スペース)



プリコロ・ハウスの  
皆さんと利用者さん



ウイングダンスプロモーション  
の皆さんと職員バンド

十月十七日(水)に平成最後となる、第十三回オータムフェスティバルを実施しました。

当日は天気にも恵まれ、アトラクションでは昨年に引き続きチアダンスの「ウイングダンスプロモーション」の素敵なダンスをはじめ、テナーサククス・アルトサククス・ドラムの三人組「プリコロ・ハウス」が元気のでるマーチング演奏をしてくれました。

ゲーム「ナイトサファリ」では、とても迫力のある動物たちの世界を探索することができました。

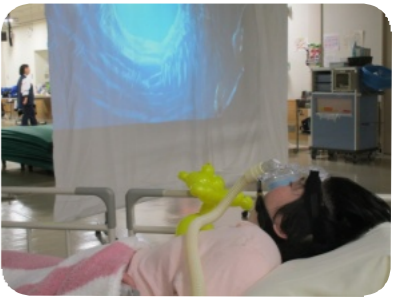
最後に毎年恒例の職員バンド演奏でフィナーレを迎え、多くの利用者様・ご家族・職員で楽しい時間を過ごしました。  
(二階南病棟 三上)

## 延長療育

十月二十二日(月)、二十五日(木)、二十六日(金)、三十日(火)に延長療育の後半を行いました。ゲーム大会は黒ひげ危機一髪やクレヨンしんちゃん風船ゲームを行い、盛り上がりました！

その後は食事を摂りながら、ディスプレイ映画「リメンバーミー」を鑑賞し、いつもより長く通所での時間を楽しみました。

保護者から「とても楽しかったらしく帰ってからしばらく興奮していました。」「ゆっくり過ごせた」「友人と出かけた」と、様々な感想をいただきました。  
(成人通所 木原)



## 病棟バスハイク



みんなで記念撮影

十月三十一日(水)にマクセル アクアパーク品川(水族館)に行ってきました。十月下旬という事もあり、気候の心配がりましたが、暖かなボカボカ陽気の中でセンターを出発することができました。

到着してすぐにイルカショーの見学です。ダイナミックなイルカの動きは今までのバスハイクでは経験のなかった新鮮さを体験することができました。その後、フロア内を回り、

大きな水槽を優雅に泳ぐ魚たちを見学しました。魚の群れやゆったりと雄大に泳ぐエイの姿に思わず驚いてしまう場面もありました。

様々な海の生き物に出会うことで、それぞれの有意義な時間を過ごすことができました。

この日は呼吸器装着者三名を含めた五名が参加しました。医師の付き添いもあり時間を延長して楽しみました。  
(三階西病棟 西田)

## 第二十二回 医局講演会 「重症心身障害児(者)のコミュニケーション支援」



小池 敏英 先生

講師 小池 敏英 先生

平成三十年十一月二六日(火)、東京学芸大学教授の小池敏英先生にご講演いただきました。講演では重症児(者)の注意反応や期待反応等、必ずしも明確ではない応答が生理心理学的な手段により確認された研究を紹介いただきました。注意反応や期待反応を心拍数の減速反応と捕らえ、周囲の人がこの応答を患児とともに喜ぶ声掛けを行う事でより明確になることを報告されました。

さらにこの研究では重症児(者)の注意反応および期待反応は外見上微弱な応答であるものの、刺激・反応・応答の時間関係から重症児(者)が理解していることを反映したものであることを明らかにされました。当センター職員にとって大変有意義な講義となりました。  
(副診療部長 荒井)

## 第七回ヨーロッパ小児科学会報告 (フランス・パリ)

第七回ヨーロッパ小児科学会はフランス、パリで二〇一八年十月二十九日から十一月三日まで一週間におよび開催されました。私は国内の用事があつて一日早朝現地に着いたため、最終日のお昼までの二日半しか参加できませんでしたが、小児科全般にわたる学会とあつて大きな会場に一三〇〇名という多数の出席者があり盛会でした。私は副腎白質ジストロフィー症の発症前と発症後治療の予後を比較し前者の生存者のリスクが少ないことを報告しました。

## リハビリ科 新聞グループ



石川和子氏(中央)と新聞グループメンバー

十一月一日、リハビリテーション科新聞グループでは、神奈川県障害者支援施設「足柄療護園」に入所されている石川和子氏をお招きして交流会を行いました。この企画は、新聞グループメンバーの「他施設の人の話を聞いて



会議場入り口にて

(医局 加我)

この学会はヨーロッパ小児科学会、ヨーロッパ小児新生児集中治療学会、ヨーロッパ小児科学研究会の三つの学会の連合会の形で開催されており、学会の登録者ほどの講演、どの発表に参加してもよいということに積極的な討論が行われました。

てみたい」という希望から実現したものです。当日は、足柄療護園の職員二名と一緒に片道二時間半かけて当センターに来ていただきました。

前半は、石川氏にこれまでの半生や現在の園の生活についてお話をいただき、後半は、新聞グループのメンバーが石川氏にインタビューをしました。お互い最初は緊張の面持ちでしたが、徐々にリラックスモードに。グループメンバー以外の利用者や職員の参加もあり、笑顔あふれる交流会となりました。

今回の企画にご協力いただいた方々、何よりも石川和子氏にあらためて御礼を申しあげます。そして、今後この交流の芽を継続して育てていければと思っています。(リハ科 中沢)

## ～ 夏のフルーツジュース作り活動 ～

6~7月にかけて「フルーツジュースを作ろう!」活動を行いました。入所者の皆さんには、ジュースのスイッチON/OFFをお願いしました。メロン・オレンジ・ブドウの果汁100%ジュースに、アイスクリームを浮かべたり、エスプレッソにアイスクリームをいれて「アフォガード」を作り、味わいました。絞ったジュースは、果物を食べる時同様の風味があり、とても美味しかったです。またフレッシュな果物のある季節に、ジュースを楽しみたいものです。



調理のようす

## 使用したスロージューサーの特徴

- ① ゆっくり摩擦を減らしてすり果物を押しつぶすので、摩擦熱による果物のビタミン損失が小さい
- ② 絞りがすが分けられるので、果汁はサラサラとしていて飲みやすいジュースが出来る
- ③ 絞りがすは「食物繊維とペクチン」で、砂糖・水を加えるとジャム状になる